



～もっと地域と もっと地域へ～

かがやくえがお

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

第10号

令和8年 6月 9日
長崎市立小島小学校
校長 桐山 充晴

6月も半ばに差し掛かりました。長崎県も、先週から「梅雨入り」しました。これからの時季は「大雨警報」や「線状降水帯発生情報」など警報等がなくとも雨の日が多くなることは予想され、心配は尽きません。しかし、そんなときだからこそ、「雨風の強い日の傘の差し方」「レインコートが必要かどうか」「濡れた時のための替えの靴下は」など学ぶことも多くあると思います。



荒天時の対応に限らず、大人がやりすぎるから子供は経験を失ってしまうこともあります。「関わり方の塩梅」は難しいですが、見守りつつ、学びへのアドバイスをお願いします。

「苦手」にチャレンジ！

先週（2日）、6月の全校集会を行いました。校長講話では、次のようなことを伝えました。

今月のテーマは「伸びる（チャレンジ・確認）」です。自分の持っている力を伸ばしたり、人として成長したりするためには、「チャレンジ」と「（ルールやマナーの）確認」が必要です。「学校はチャレンジするところ。失敗したっていい。チャレンジすることが大切。チャレンジしないと失敗もできない。失敗してもチャレンジをあきらめない、そういう粘り強い人になって欲しい。」という思いと、互いに気持ちよく生活するための「ルールとマナー」について伝えました。そこで、今回は次のように話しました。

〈6月の校長講話から抜粋〉

- 「チャレンジ」には「得意なことへのチャレンジ」と「苦手なことへのチャレンジ」の2通りがある。
- 「得意なことへのチャレンジ」というのは、楽しいし、やりがいもある。しかし、時として他人と比べて自分はできるとか、できないとかということで、喜んだり落ち込んだりすることもある。人と比べてできていれば嬉しくなり、それを自信にする反面、自分よりできている人を見ると落ち込んで、やる気を失ってしまうということがあるかもしれない。自分よりあの人にはできるなと思ったら「その人を目指して頑張ろう」というのが、本当の「得意なことへのチャレンジ」である。
- 「苦手なことへのチャレンジ」は、人と比べることはあまりない。「苦手へのチャレンジ」で比べるのは「ちょっと前の自分自身」である。
- 「苦手」というのは、「自分が勝手にできないと思い込んでいるだけ」のことが多かったり、「チャレンジしたことがない」ことからの不安が原因だったりする。
- 自分を高めよう、よりよい自分になろうという心が「苦手にチャレンジ」する自分を支える。
- 「苦手にチャレンジ」することは、自分自身を磨くこと。
- 「ルール」とは、「守らなければならない規則・決まりごと」のこと。一方「マナー」とは、「守ったほうが良いきちんとした態度・礼儀」のことを意味しています。
- 多くの人が集まり、一緒に生活するには、約束や決まりが必要になってくる。
- どうして、決まりが必要になるのか考えてほしい。
- もしも決まりがなかったらどうなるのか考えてほしい。



近頃の子供たちは、「こんなことをしても意味はないよ。」とあっさりとあきらめることが多い気がします。だからこそ「難しいこと大好き。これをやるときっとできることが増えるぞ。」と進んでチャレンジできる子になってほしいと考えています。「やらない」という道を選ぶより、「挑戦を楽しむ」という思いをもってほしいのです。

私は、子供たちに「いろんなことに挑戦しよう。」とか「失敗することを恐れてはいけません。失敗を恐れて挑戦しない方が失敗です。」ということが伝わってほしいと願っています。それは、人は努力次第でいくらかでも未来を切り開いていけると、一人一人に無限の可能性を感じているからです。自分の可能性を一番信じなくてはいけないのは、自分自身のはずです。1学期も後半に入ります。一人一人の子供たちにとってよいチャレンジをして1つでも多くの成果を上げることができるよう励ましていきます。御家庭でも、支援の声掛けをよろしくお願いいたします。